

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	国語・言語文化（普・理）	単位数	3	担当者	丸山
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

『言語文化』（筑摩書房）、『新訂国語図説』（京都書房）
 『解釈のための 必携 古典文法』（啓隆社）、『Key&Point 古文単語 330』（いっぴな書店）
 『新明説漢文』（尚文出版）、『漢文語彙字典』（尚文出版）

2、科目の目標

- ・ 古典の世界の豊かさを味わうことを通して、言語文化に対する理解を深める。
- ・ 言葉が持つ価値への認識を深める。
- ・ 論理的に考える力、豊かな想像力を培い、それらをもって他者とコミュニケーションを図る態度を養う。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	①「児のそら寝」（古） ②「丹波に出雲という所あり」（古） ③訓読の基本	①②歴史的仮名遣いに気をつけながら音読をし、古文に親しむ。 ③訓読の基本を確認し、書き下しや音読ができるようになる。	5 3	① ② ③
	5月	「借虎威」（漢） 「漁夫之利」（漢）			
	6月	④「芥川」（古） ⑤夢について	④上人の心情に気をつけて読み、作者の批判を読み取る。 ⑤「夢」について現代、古典の文章に触れる。また、自らの「夢」についての考えを随筆・小説として表現する。		
	7月	「胡蝶之夢」（漢） 夏目漱石「夢十夜」（現） 峰飼耳「虹の雌雄」（現）			
8月	⑥芥川龍之介「羅生門」（現）	⑥翻案小説について知識を深め、原作との比較から主題を考える。			
9月	《学期を通して》 ※古文の品詞・活用を学ぶ ※漢文の訓読を学ぶ。				
後期	10月	⑦兵藤裕己「転換期の文学—『平家物語』の魅力」（現） 「木曾の最期」（古）	⑦軍記物を読み、史実と文学の両面から作品を鑑賞する。また地元の武将について自ら調べ、理解を深める。	5 2	⑦ ⑧
	11月	「那須崇高」（漢） ⑧「韻文の表現」（漢）	⑧漢詩の歴史・知識を深める。		
	12月	⑨「万葉集」・百人一首（古） 「筒井筒」（古）	⑨和歌の文化を知る。また、登場人物の心情を丁寧に読み取り、普遍的な男女の心情を味わう。		⑨ ⑩ ⑪
	1月	⑩「雑説」（漢） ⑪韻文の表現（現）	⑩諸子百家について知る。また、思想家たちが思想を伝える際に用いた工夫に気づく。 ⑪「意味」と「音」の両面から詩を味わい、言葉による表現の深さを知る。		
	2月	《学期を通して》 ※古文の助動詞・助詞を学ぶ。 ※漢文の句法を学ぶ。			
3月					

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	古典の言葉や使い方、我が国の言語文化に関する事項について理解する。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通して論理的な思考・判断をし、適切な表現をする。	定期テスト、レポート、作成物
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

- ・ 日々の学習（授業）を大事にしましょう。
- ・ 提出物の期限を守り、自ら計画をして学習を進めましょう。
- ・ 古典の文法や句法は、地道に繰り返し覚えましょう。

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	国語・現代の国語（普・理）	単位数	2	担当者	神田
---	----	-------	---------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

現代の国語（筑摩書房） 新訂国語図説六訂版（京都書房） 核心漢字 2500+語彙 1000（尚文出版）

2、科目の目標

- ・論理的文章を読み、語彙や知識を身に付け、読解能力を養う。
- ・論理的文章を読むことで社会の問題や様々なテーマに関するものの見方、考え方を学び、自ら判断しそれを表現する力を養う。

3、学習の計画 ☆：言語活動

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	第一章 ①「サイエンスの視点、アートの視点」 「一般化の畏」	①長文を読むことに慣れ、筆者の主張を具体例の共通点を抽出し理解する。「問い」を抱くことの重要性や、どのような「問い」がよい問いなのかを理解する。	35	
	5月	第二章 ②「ことばとは何か」 ☆新書を読み、一節を引用して本の紹介カードを作成し、コメントを添える。	②評論文特有の語彙や言い回し・評論文読解の際のポイントを修得し、一般論や自明な事実に対する批判的姿勢を養うことが評論文読解の意義であることを理解する。言語論を読み、概念（名前）の持つ役割を考える。		
	6月	第三章 ③「身体、この遠きもの」 ☆聞き書きをしてメモの取り方や整理の仕方を学ぶ。前章を活かし問いをつける。	③身体論という評論頻出テーマの文章にふれ、最も身近な自分の身体について再考する。		
	7月	第四章 ④「わかっていることと知らないこと」 ☆新聞記事、法律の条文、様々な種類のグラフ等、情報源を正確に読み、適切な使い方を学ぶ。	④グラフ等の資料に基づいた評論文を読み、資料の正しい読解方法と、論を支える適切な資料の使い方を身に付ける。		
	8月	第五章 ⑤「〈私〉時代のデモクラシー」 ☆時事問題に関するディベートを行い、相手が納得するように意見を述べる。	⑤近代社会と伝統的社会という典型的な評論の二項対立の文章を読み、筆者の主張を的確に読み取る。時事問題に関心を持ち、それについて根拠のある意見を言えるようになる。		
9月	第六章 ⑥「魔術化する科学技術」 ⑦「未来は存在しない」	⑥⑦優れた評論文を読み、その構成を学ぶ。文章の要約を通して、筆者の主張とその根拠を正確に読み取る。自明だと感じていることについて批判的に検討する視点を養う。			

後 期	10月	第七章 ⑧「ポスト真実時代のジャーナリズム」 ☆メディアから時事問題に触れ、報道の在り方を検討する。	⑧メディア論を通して、普段自分たちが触れているメディアについてその接し方を含めて再考するとともに、考え方の違う相手とのコミュニケーションにおいて何が重要なのかを学ぶ（⑩と関連）。伝え方によって意図に反する伝わり方をするを学び、適切な言葉選びや伝え方を習得する。	35	⑧ ⑨
	11月	第八章 ⑨「贅沢の条件」 ☆ポスターやラベル等から、効果的なフレーズを探す。本を読みポップを作成する。	⑨二項対立の構造を効果的に用いた文章を読み、論の構成の仕方を学ぶ。また、それをを用いた小論文を書けるようになる。		
	12月	第九章 ⑩「来るべき民主主義」 ⑪「主体という物語」	⑩政治論を読み、現在の日本や世界の政治の在り方に関心を持つきっかけとする。政治についての考え方を知る。 ⑪「主体性」と言われるものが本当はどのようなものなのか、本論を通して一つの考え方を知る。	⑩ ⑪ ⑫ ⑬	
	1月	第十章 ⑫「開かれた文化」 ☆様々な国や地域の風習や文化について調べる。（表現の仕方や、それを受容する際の姿勢に留意する。）	⑫評論文特有の語彙を理解するとともに、筆者の語彙の使い方に注意して内容を読み取る。筆者の主張に即した「異文化理解」を試みる。		
2月	⑬名づけと所有	⑬1年間を通して学んだ言語論、政治論、異文化理解などの考え方を活用し本論を読む。			
	3月				

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	論理的な文章や実用的な文章・資料を正しく読み解き、理解・活用するために必要な知識・技能を身につける。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	論理的な文章の読解を通して、社会の問題や様々なテーマに関するものの見方・考え方を養う。 問題やテーマに関して自分の意見を持ち、それを他者の意見を尊重しながら主張することができるようになる。また、問題の解決の糸口を探すための訓練をする。	定期テスト、言語活動への取り組みやそこでの成果物（作成物や発表等）
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	言語活動への取り組み、出席、提出物、授業態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・覚えた語彙や漢字を日常生活において使ってみる。 ・日々の学習（授業）を大切に、そこで問題として挙げられているテーマや、そのほかの様々な事象について積極的に考え、言語化し、人と話す習慣をつける。 ・言語活動には積極的に参加する。 ・率直な感想や発言を大切に、それを言語化して、なぜそのように感じたのかを考える。
--

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	国語・現代の国語（森・イ）	単位数	2	担当者	杉村・仁科・丸山
---	----	-------	---------------	-----	---	-----	----------

1、教科書・副教材

新編現代の国語（東京書籍） 新訂国語図説（京都書房） 常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

2、科目の目標

- ・実社会に必要な国語の知識・技能を身につける。
- ・論理的に考え、他者との関わりの中で伝え合う力を高める。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	①村田沙耶香「こそめスープ」	①筆者のものの見方や考え方を読み取るとともに、自分に当てはめて考えることで、文章読解への関心を高める。	35	
	5月	②社会と関わる 「鍋洗いの日々」 「森で染める人」			
	6月	「真夏のひしこ漁」	②働く人の思いに触れ、社会に生きる自分の将来について考える。		
	7月	★【活動（読・書）】職業調べ	③評論文を読むための基礎を確認する。筆者の主張を、根拠を理解して読み取る。		
	8月	③石田英敬「未来をつくる想像力」			
後期	10月	④文章の書き方 （原稿用紙の使い方、文語表現）	④⑤文章の書き方の基礎を学び、自分の意見を文章で伝える技術を身につける。	35	
	11月	⑤小論文（論理的な文章の書き方） ⑥山崎正和「水の東西」	⑥二項対立を意識して、両者の特性をつかみながら読み、筆者の主張を理解する。		
	12月	★【活動（話・聞）】言葉と生活1 「わかりやすい説明をしよう」	⑦具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張を理解する。		
	1月	⑦港千尋「無彩の色」			
	2月	★【活動（書）】言葉と生活2 「新聞記事を読んで意見文を書こう」	⑧「自立」について自分の考えを持ち、視野を広げる。		
	3月	⑧鷺田清一「真の自立とは」			

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	実社会で必要となる国語の知識・技能を身につける。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通して論理的な思考・判断をし、適切な表現をする。	定期テスト、レポート、作成物、発表
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

- ・漢字、語句、様々な表現を自分自身が使えるように繰り返し学習をしましょう。
- ・提出物の期限は必ず守りましょう。

R5 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	国語・言語文化（森・イ）	単位数	1	担当者	杉村・仁科・丸山
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----------

1、教科書・副教材

新編言語文化（東京書籍） 新訂国語図説（京都書房）

2、科目の目標

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、言葉がもつ価値への認識を深める。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	①俵万智「さくらさくらさくら」	①3首の歌の内容と読まれた心情をそれぞれ考え、筆者の考える日本人独特の感覚とは何かつかむ。	18	① ② ③
	5月	②古文に親しむ （仮名遣い、音読など）	②③古文の特色を知り、古文を学ぶ基礎を身につける。		
	6月	③「児のそら寝」			
	7月	④長嶋有「雨漏りの音」	④時間の経過に注意しながら本文を読み、登場人物の心情について考える。		④ ⑤
	8月	⑤訓読の基本（訓読）	⑤訓読の方法を学び、漢文を正しく音読できるようになる。		
9月					
後期	10月	⑥訓読の基本（格言）	⑥訓読の方法を学び、漢文を正しく音読できるようになる。	17	⑥ ⑦
	11月	⑦「五十歩百歩」	⑦昔の事柄と現代使われる語句とのつながりに気づき、言葉に興味を持つ。		
	12月				⑧ ⑨
	1月	⑧詩歌 高村光太郎「冬が来た」 佐藤春夫「少年の日」 吉野弘「I was born」	⑧様々な表現の仕方を学ぶ。		
	2月				
3月	⑨「絵仏師良秀」	⑨歴史的仮名遣いに慣れ、主人公の独特な考え方を読み取る。			

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	古典の言葉や、我が国の言語文化に関する事項について理解する。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通して論理的な思考・判断をし、適切な表現をする。	定期テスト、レポート、作成物
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

- ・音読を大切にして、言語文化に親しみましょう。
- ・提出物の期限は必ず守りましょう。